

# 7 健康・医療

## 目指す姿

市民が健康的な生活習慣を身につけ、  
自発的に健康づくりに取り組んでいます。

## 現状・課題

- 健康であることは、実り豊かな生涯を過ごすのに重要な要素です。市民一人ひとりが自分の健康に関心を持ち、自ら健康づくりに積極的に取り組めるような環境づくりが必要です。
- 一次救急医療\*としての休日夜間応急診療所は中南和地域における小児救急医療の拠点的作用も担っており、地域の協力のもと充実した体制を取っています。一方、二次救急医療\*体制については、専門性や医療従事者の不足などの問題が顕在化しつつあります。近隣との広域化・連携強化を図るなど、地域医療体制のさらなる充実が求められます。
- 高齢化の進行や医療の高度化などにより医療費が増加しています。そのようななかでも、誰もが安心して医療を受けることができる体制を確保するため、公的医療保険制度\*の安定的な運営が求められます。



食育活動

関連する  
SDGs



## 成果を測る指標

### 日常的に健康づくりに関心を寄せている市民の割合

実績値：49.6%

## 取組み例

### 保健

- ★健康についての学習機会を提供するとともに、適切な保健指導を行います
- ★市民の健康実態の分析と情報の提供などに取り組みます
  - 各種検診（健診）の受診勧奨を図ります
  - 食育を推進します
  - 予防接種を推進するとともに、感染症予防に関する情報提供を早期に行います
  - 新しい感染症にも迅速に対応できるよう、橿原市新型インフルエンザ等対策行動計画を踏まえた感染症対策を図ります
  - 感染症予防のための正しい知識や対処法の普及啓発を行います

### 健康づくり

- ★地域の健康づくり活動を支援します
- ★健康づくり活動に携わる人材を育成します
- ★健康的な生活習慣づくりに向けた意識啓発を行います
  - 思春期の健康教育について、学校と連携した実施に努めます
  - こころの健康に関する正しい知識や対処法の普及啓発を行います
- ★奈良県立医科大学と連携した健康づくり事業に取り組みます

### 医療

- 一次・二次・三次救急医療\*体制がそれぞれ円滑に機能するよう、関係機関と連携します
- 二次救急病院群輪番体制の安定した継続に努めます
- 小児救急医療体制の確保に努めます
- 休日夜間応急診療所の安定的な運営に努めます
- 関係機関と連携した感染症対策及び衛生資材の確保・備蓄に努めます

### 公的医療保険

- 公的医療保険制度の周知を行います
- 生活習慣病\*の予防にかかる対策を講じるなど、医療費の適正化に努めます
- 後期高齢者医療制度\*を適正に運営します
- 国民健康保険制度\*を適正に運営します

## 個別計画

- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| ▶健康かしはら21計画           | ▶橿原市国民健康保険保健事業実施計画 |
| ▶橿原市食育推進計画            | （データヘルス計画）         |
| ▶橿原市国民健康保険特定健康診査等実施計画 | ▶橿原市自殺対策計画         |

# 8 地域福祉

## 目指す姿

地域の誰もが主体となって支え合いながら、  
健やかに安心して心豊かに暮らしています。

## 現状・課題

- 地域が抱える課題は、複合化・複雑化しています。地域共生社会の実現を目指し、丸ごと相談を受けとめる「断らない相談支援」、社会との接点を生み出す「参加支援」、地域において多様なつながりをつくる「地域づくりに向けた支援」の3つの支援を一体的に行う包括的な支援体制の整備が必要です。
- 多発する自然災害を受け、災害時の要配慮者\*支援などの必要性が高まってきています。避難行動要支援者制度\*の充実を図り、地域の自助・共助の力を強める必要があります。
- 不安定な雇用や所得の低下により経済的な困窮状態に陥る人が増えており、同時に貧困の世代間連鎖といった問題も深刻化しています。生活保護に至る前の第2のセーフティネットとして、生活困窮者に対する包括的かつ早期の支援も求められています。
- 生活保護の保護率はほぼ横ばいですが、高齢化により医療扶助などが増加傾向にあります。生活保護業務の実施に際して、より適正な保護執行及びより実効性のある自立支援を行う必要があり、ひいては、国レベルで生活保護制度のあり方について検討する必要があります。



災害ボランティアセンター運営者養成講座

関連する  
SDGs



## 成果を測る指標

### 身近に支え合える環境があると感じる市民の割合

実績値：49.4%

## 取組み例

### 地域福祉活動

- 地域が抱える複雑な課題に対して、各担当機関と連携して解決を図ります
- 地域見守りネットワーク\*を拡充します
- 地域で活動する住民や団体などを支援するとともに地域活動やボランティア活動への市民の参加を促します
- 地域福祉活動の担い手を育成します
- 福祉活動への市民意識の向上を図るため、啓発、情報提供を行います
- 学校、地域における福祉教育を推進します
- 民生委員\*・児童委員\*活動をはじめとする各種活動への支援を行います
- 災害に備え、避難行動要支援者名簿を整備します

### 生活困窮者支援

- 生活困窮者を把握したときは、生活困窮者自立支援制度の利用勧奨などのアウトリーチ\*を行います
- 関係機関と連携し情報共有を図りながら、一人ひとりの課題に応じた包括的な支援を行い、生活困窮者の自立を支援します
- 支えが必要な人への相談支援体制を整え、必要な情報・サービスを提供します
- 就労支援や就労準備支援、住居確保給付金の支給を行い、生活困窮者の自立を支援します
- 家計状況を把握してもらい、家計改善意欲を向上させるため、家計改善支援を行います
- 制度をまたぐ課題や狭間にある課題に対し、関係機関が協働して対応できるよう調整や支援を行います
- 学力の不足や社会的孤立による新たな貧困の発生を防止するため、生活困窮世帯などの子どもの学習支援を行います
- 生活保護業務を適正に執行し、個々の世帯に応じた適正保護に取り組みます

## 個別計画

▶ 橿原市地域福祉推進計画

# 9 高齢福祉

## 目指す姿

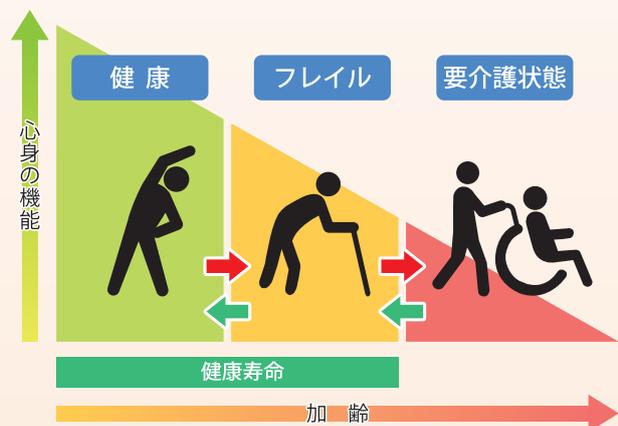
いざというときの安心感があり、高齢者が住み慣れた地域で、心豊かな生活をしています。

## 現状・課題

- 65歳以上人口の増加に伴い、要介護認定者数は増加していますが、一方で元気に高齢期を過ごしている人も増加しています。生活機能が低下する前からの予防と、フレイル\*期以降における自立支援・重度化防止に努める必要があります。
- 高齢単身世帯は増加傾向にあり、地域交流や家族関係の希薄化と相まって、孤立してしまう人が増えてきています。このようなケースは認知症や孤独死につながる恐れがあるため、見守り活動を中心とした地域支援ネットワーク\*と相談支援体制を充実させるとともに、生きがいをもって生活できるよう、本人の社会参加を促す必要があります。
- 介護が必要となったとしても、その人の生き方や尊厳を大切にし、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス体制（地域包括ケアシステム\*）の深化・推進が求められます。
- 2025年には、いわゆる「団塊の世代」が75歳以上となり、それに伴い介護サービスの利用量が増加することが見込まれます。今後も継続して介護認定\*及び介護給付\*の適正化に努めて、介護給付の質を落とすことなく、介護サービスを必要とする人に持続的に提供することが求められます。



元気な一歩会 介護予防セミナー



フレイルの概念図

関連する  
SDGs



## 成果を測る指標

### 市内の高齢者は元気だと感じる市民の割合

実績値：58.6%

## 取組み例

### 見守り・ネットワーク

- 地域支援ネットワークと相談支援体制を強化・充実させます
- 地域の見守り活動を実施します
- 地域包括支援センター\*と「かしはら街の介護相談室\*」による支援の充実に努めます

### 社会参加・いきがい

- 社会参加を促す老人クラブの活動を支援します
- 高齢の方と地域住民が関わりを持つ機会を増やし、社会参加の促進に努めます
- 身近な場所で継続的に健康づくりや介護予防に参加できるよう、支援を行います

### 介護保険

- 介護保険事業を円滑で安定的に運営します
- 適切な介護認定、給付を維持します
- 介護保険のサービス内容の周知を行います
- 介護保険事業計画に基づき、介護サービスの基盤整備を計画的に進めます
- 介護サービスの質の確保・向上のため、介護保険事業者への指導・助言などを行います

### 認知症・権利擁護

- 認知症\*の早期発見に努めるとともに、認知症予防・支援策を充実させます
- 認知症についての正しい理解の普及啓発に努めます
- 高齢の方の尊厳を守り、その人らしく地域で安心して生活できるよう権利擁護を推進します
- 判断能力に不安を覚える方に対し、成年後見制度\*の活用を促進します

## 個別計画

- ▶ 橿原市老人福祉計画及び介護保険事業計画

# 10 障がい福祉

## 目指す姿

障がいのある人もない人も、誰もがお互いに尊重し  
支えあいながら、いきいきと暮らしています。

## 現状・課題

- 障がいのある人ない人を分け隔てることのない社会の実現のためには、一人ひとりが障がいと障がいのある人に対する正しい理解と認識を持つことが重要です。いわゆるノーマライゼーション\*や社会的包摂（ソーシャルインクルージョン\*）の考えを浸透させるとともに、障がいのある人に対する合理的配慮\*の提供により、社会活動への参加機会を拡充していく必要があります。
- 障がいのある人が自ら望む形で地域生活を営むことができるよう、福祉サービスの利用支援や就労に結びつけるための連携などを関係機関と行っています。引き続き、安心した生活が営めるよう環境整備やサービスの質の確保・向上、相談体制の充実に努める必要があります。
- 介護する側の高齢化や「親亡き後」問題\*への不安などからくる、介護疲れや心労が問題となっています。障がいのある人本人に対する支援と同時に、家族の不安を解消するような支援が必要となります。

### 障がい者福祉のてびき



障がい者福祉のてびき

関連する  
SDGs



### 成果を測る指標

障がいのある人が日常生活を送るための環境が  
整っていると感じる市民の割合

実績値：15.0%

### 取組み例

#### 障がい理解・権利擁護

- 障がいや障がいのある人への理解を促進させます
- 障がいのある人の権利を擁護します
- 障がいのある人とない人との交流を支援します
- 合理的配慮の提供と啓発を行います

#### 社会参加・日常生活・就労

- 障がいのある人のニーズに応じて、福祉サービスの提供を行います
- 障がいのある人の社会参加を促進します
- 障がい関係団体や事業所による活動・イベントの周知など、社会参加につながる取組みを支援します
- ハローワークや就労支援事業所と連携し、障がいのある人の就労支援を行います
- 障がいのある人の生活を地域全体で支え、家族の不安を解消する体制を構築するため、地域生活支援拠点を整備します
- 文化・スポーツ・レクリエーション\*などを通じて、障がいのある人が地域で活動しやすい環境づくりに努めます

#### 相談・支援

- 障がいのある人の医療費を助成します
- 関係機関との情報共有や連携による相談支援及び専門職員の配置などにより、総合的な相談支援体制の構築に努めます

### 個別計画

- ▶ 橿原市障がい福祉計画
- ▶ 橿原市障がい者福祉基本計画
- ▶ 橿原市障がい児福祉計画
- ▶ 橿原市発達障がい者支援推進プログラム

# 11 市民協働

## 目指す姿

それぞれの役割と責任のもと、市民が自らの意思で地域の活動に主体的に参加・参画し、まちづくりを行っています。

## 現状・課題

- 人口減少・少子高齢化や市民の価値観の多様化に伴って、個人と地域のつながりが薄くなってきています。一方で地域や社会へ貢献したいという人は多く、NPO\*・ボランティア活動などに積極的に関わる人々も増加しています。これを活かすことができるような新たな協働体制の構築が求められます。
- 自治会は、住みよい地域をつくっていくための最も身近な住民組織であり、その活動は防災・防犯・福祉・環境・教育など多岐の分野にまたがり、地域の問題を地域で解決するのに重要な役割を果たしています。しかしながら、構成員の高齢化や役員の固定化・負担増加など、自治会の継続的な活動に直接影響を及ぼす問題が顕著となってきており、自治会活動の活性化及び組織力の強化に対する支援が求められます。



飛鳥川でのボランティアによる清掃

関連する  
SDGs



### 成果を測る指標

地域の活動に、積極的に参加している市民の割合

実績値：16.5%

### 取組み例

#### 市民協働

- 地域課題の解決に向けた住民の自主的な取組み・活動の支援を行います
- 地域におけるさまざまな団体のネットワーク化を推進します
- 市内における市民活動団体などの取組みの支援を行います
- 市民活動交流広場から情報を広く発信します
- さまざまな段階での市民の市政参加・参画機会の拡大などに取り組みます
- 市民と行政または市民同士の交流や活動の機会の提供に努めます
- ★結婚したいと思う人の希望をかなえる応援・サポートの環境をつくれます

#### 地域コミュニティ

- 自治会などで行う加入促進事業への支援を行います
- 地域コミュニティの担い手を育成する事業への支援を行います
- 地域コミュニティの活動や役割、必要性への理解を深めるための取組みを進めます

### 個別計画

- ▶ 橿原市市民協働指針

# 12 人権

## 目指す姿

すべての人の人権が尊重される差別のない社会を築く意識を  
市民の誰もが持っています。

## 現状・課題

- 私たちの周りの身近なところには、部落差別をはじめとするいまだに解決しない人権課題、あるいは時代の流れや社会の変化とともに注目されるようになった外国人やLGBTQ\*などに対する偏見、インターネット上の人権侵害などのさまざまな人権問題が存在しています。お互いの人権を尊重し多様性を認め合う社会の確立には、市民一人ひとりが人権問題に対する正しい知識を身につけ、人権意識の高揚を継続的に図っていくことが求められます。
- 女性の社会進出に伴い、男女の賃金格差は縮まってきていますが、社会や日常生活のなかでは性別役割分担意識は根強く残っています。性別にかかわらず、あらゆる分野の活動に参画し個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会\*実現に向け、意識づくり・社会環境づくりが求められます。
- 自分も友達も大切に子どもたちを育成するため、市内各校園や地域における人権教育の取組みを継続的に進めています。しかし、いじめ・不登校や学力保障\*などについては、子どもを取り巻く環境のなかに人権課題が潜在している場合があり、その解決に向けて支援体制を充実させることが求められています。



世界の文化体験イベント

関連する  
SDGs



## 成果を測る指標

身近なところで人権問題が発生していると感じる市民の割合

実績値：15.5%

## 取組み例

### 人権

- 地域団体や住民と協働して人権啓発・広報活動を実施します
- 関係機関と連携し、人権相談体制を整備します
- 人権が尊重され差別のない社会を築く担い手を育成します
- 幼稚園、保育所、認定こども園、小中学校などにおける人権教育と地域における人権研修などを推進します
- 「おおくぼとその周辺のまちづくりの歴史」を発信します
- コミュニティセンターの活用を促進し、地域の交流をより深めます
- 合理的配慮の提供を徹底・拡充します
- 平和の尊さ、命の大切さについて考える機会を提供します

### 多文化共生

- 市民、市民団体、企業との協働により、多文化共生のまちづくりを進めます
- 市民が異文化を理解し、尊重するための取組みを支援します
- 教育、防災、福祉など生活全般にわたって、外国人が暮らしやすいよう支援します
- ユニバーサルデザイン\*の啓発を行うとともに、多言語や簡易な日本語（ひらがな等）、イラストを多用した情報発信に取り組みます
- 外国にルーツ\*を持つ人たちのエンパワメント\*形成を支援します
- 自由かつ等しく情報やサービスを享受でき、誰もがまちづくりに参加できる環境整備を進めます

### 男女共同参画

- 男女共同参画意識の高揚やワーク・ライフ・バランス\*の実現に向けて、職場・学校・地域・家庭での継続的な啓発を推進します
- 各種相談の実施により、性別による人権被害を防止、救済します

## 個別計画

- |  |                                  |
|--|----------------------------------|
| ▶ 橿原市人権施策に関する基本計画                              | ▶ 橿原市人権教育の推進についての基本方針            |
| ▶ 橿原市男女共同参画行動計画                                | ▶ 橿原市在日外国人（主として韓国・朝鮮人）教育に関する指導指針 |
| ▶ 橿原市配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等<br>のための施策の実施に関する基本計画 | ▶ 橿原市教育大綱                        |
| ▶ 橿原市就学前人権保育・教育指針                              |                                  |